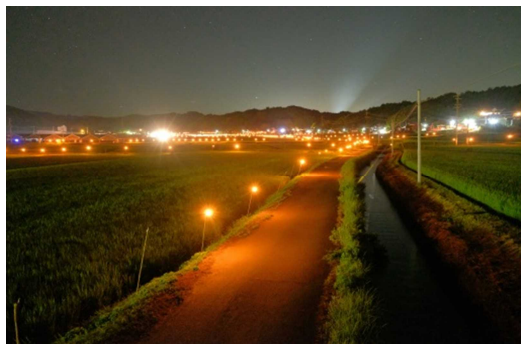


緒方川と緒方盆地の農村景観

～水と石が織りなす暮らしの風景～



表紙写真説明

緒方下井路と
コダイ（小松明）

緒方神楽

緒方川と緒方盆地

長瀬橋

緒方上井路の
灌漑用水車

大分県豊後大野市文化的景観保護推進事業 調査報告書

緒方川と緒方盆地の農村景観

～水と石が織りなす暮らしの風景～



緒方川と緒方盆地



上年野地域の圃場



原尻の滝



緒方三社川越し祭り

はじめに

豊後大野市は、平成 17 年 3 月に犬飼町、三重町、千歳村、大野町、朝地町、清川村、緒方町の 5 町 2 村が合併し発足致しました。市域は大分県の南西部に位置し、総面積が 603.36 km²で、県土の約 9.5%を占めています。市内には、大分県最大の河川である大野川が南西から北東へ流れ、緒方川などの支流により形成された段丘面では、豊かな水資源を利用した稲作が盛んで、「原（はる）」と称される台地上では「大分の野菜畑」と呼ばれるほどの畑作地帯が広がっています。

豊後大野市の全域は、平成 25 年 9 月に日本ジオパークネットワークに加盟が認定され、「おおいた豊後大野ジオパーク」として自然遺産、地質遺産、歴史遺産を保全する取り組みを行っています。特に学校教育の現場では郷土学に力を入れ、大地の成り立ちと人々の歴史を学び、生きる力を養う教育を行っています。平成 29 年 6 月には、大分県の豊後大野市・竹田市・佐伯市と宮崎県の高千穂町・日之影町・延岡市の 6 市町が、祖母・傾・大崩ユネスコエコパークに登録されました。地質遺産や歴史遺産とともに貴重な動植物群を守り、自然と人との共生を図る取り組みを広域的に行っているところです。市内の歴史遺産としては、国指定史跡である岩戸遺跡（旧石器時代）を筆頭に、三重町の前方後円墳群（古墳時代）、菅尾磨崖仏や緒方宮迫東・西石仏（平安時代）・犬飼石仏や普光寺磨崖仏（鎌倉時代）などの石造磨崖仏群、全国第 1 位の数を誇るアーチ式石橋群（近世～近代）など、多くの石造文化財が存在します。また、春季・秋季に市内の各神社で奉納される獅子舞や白熊、神楽などの民俗芸能は、県下でも突出した数を誇っています。

このような自然と歴史が豊かな豊後大野市のうち、祖母山系を源流とする緒方川流域に形成された緒方盆地とその周辺地域では、古代から近代にかけて多数の灌漑用水路網（井路網）が開鑿され、盆地内には広大な水田が、そして周辺の丘陵地帯には美しい棚田の景観が広がっています。この景観は、長い年月を経て「地域の人々の生活・生業・風土」により形成されたものです。その成り立ちを調査・研究することにより、文化的景観としての価値を明らかにし、環境保全・歴史遺産の保護・活用を図る第一歩とすべく、平成 27 年度から文化的景観保護推進事業に着手し、調査委員会を立ち上げました。そして、長期間に亘る調査・研究の成果として、令和 2 年度に調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査報告書では、古代から近代にかけて行われた井路開鑿が、緒方盆地の人々の生活を豊かにし、農村文化を育み、多くの歴史遺産を生み出し、それが現在も引き継がれていることが明らかにされました。この人々が築き上げた農村景観の価値を再認識し、また来訪する方々とその価値を共有し、永きに亘って文化的景観が引き継がれていくよう、全力で保全・活用に取り組む所存です。

調査報告書の作成にあたっては、飯沼賢司委員長をはじめ委員の皆様には、現地調査から報告書の執筆に至るまで、長期間に亘り誠にお世話になりました。また、文化庁・大分県教育委員会文化課の関係各位には、調査のご指導・ご支援を賜り誠にありがとうございました。そして、圃場や井路の調査の際には、農作業の最中にもかかわらず、手を休め調査にご協力いただいた多くの市民の皆様には、深く感謝申し上げます。

令和 3 年 3 月

豊後大野市教育委員会

教育長 下田 博

目次

	ページ
・はじめに	
・例言	1
第1章 調査の概要	3
第1節 調査の目的	
第2節 調査の体制	
第3節 調査の範囲	
第2章 自然的特性	8
第1節 地形地質	
第2節 気候気象	
第3節 植生（棚田、盆地、里山）	
第4節 自然災害	
第3章 歴史	43
第1節 先史 大石遺跡と縄文農耕、古墳時代の横穴墓	
第2節 古代 伝承と緒方条里の開発	
第3節 中世 緒方三郎惟栄と川越し祭	
第4節 近世 緒方盆地における新井路の開鑿と緒方五千石	
第5節 近代 長距離水路と石橋	
第4章 暮らしと景観	63
第1節 水の利用と景観	
第2節 石の利用と景観	
第3節 絹さん人形に見る農家の暮らし	
第4節 集落の景観	
第5節 景観の中の伝統行事	
第6節 人口動態	
第7節 経済・産業	
第8節 土地利用の状況	
第9節 各地の景観	
第5章 緒方盆地の本質的な価値	338
第1節 緒方盆地の景観特性のまとめ	
第2節 緒方盆地の文化的景観の成立過程	
第3節 緒方盆地の農村景観の本質的な価値	
第6章 今後の展望と課題	350
第1節 地域の課題	
第2節 農村景観の継承の意義	
第3節 保存の基本方針	

例言

本調査報告書は、平成 27 年度から令和 2 年度にかけて国庫補助・大分県補助を受けて実施した、『大分県豊後大野市文化的景観保護推進事業』の調査報告書である。

本調査報告書は、豊後大野市のうち緒方町域に所在する緒方川と緒方盆地の文化的景観に関する調査等をまとめたものであり、大野川流域の文化的景観調査委員会の監修を受け、豊後大野市教育委員会が編集した。

執筆分担の一覧

章	節	執筆者	
第 1 章 調査の概要	第 1 節 調査の目的	高野弘之	
	1 緒方盆地と周辺地域の地理的環境	〃	
	2 調査に至る経緯と調査の目的	〃	
	第 2 節 調査の体制	高野弘之	
	1 調査の体制	高野弘之	
第 3 節 調査の範囲	1 文化的景観選定予定地の調査範囲の設定	高野弘之	
	第 2 章 自然的特性	第 1 節 地形地質	竹村恵二 吉岡敏和
		1 地形	〃
	2 地質	〃	
	第 2 節 気候気象	高野弘之	
1 概説	〃		
2 気温	〃		
3 緒方町域の降水量	〃		
4 気候に関わる伝承など	〃		
第 3 節 植生（棚田、盆地、里山）	岩里実季		
1 はじめに	〃		
2 植生の概要	〃		
3 特徴のある地域	〃		
4 分布上貴重な植物	〃		
5 景観構成上重要な植物	〃		
第 4 節 自然災害	高野弘之		
1 江戸時代の風雨災害	〃		
2 平成以降の風雨災害	〃		
3 風雨災害の想定	〃		
4 地震災害	吉岡敏和		
第 3 章 歴史	第 1 節 先史 大石遺跡と縄文農耕、古墳時代の横穴墓	下村智	
	1 大石遺跡と縄文農耕	〃	
	2 古墳時代の横穴墓	〃	
	第 2 節 古代 伝承と緒方条里の開発	飯沼賢司	
	1 古代の辺境緒方と三輪信仰と八幡信仰	〃	
	2 豊後大神氏と緒方氏	〃	
	3 緒方条里の開発	〃	
	第 3 節 中世 緒方三郎惟栄と川越し祭	飯沼賢司	
	1 緒方惟栄の盛衰	〃	
	2 緒方川越し祭りを讀む	〃	
	第 4 節 近世 緒方盆地における新井路の開鑿と緒方五千石	飯沼賢司	
	1 緒方盆地における新井路の開鑿	〃	
	2 緒方井路碑に見る緒方五千石の出現	〃	
	第 5 節 近代 長距離水路と石橋	飯沼賢司	
	1 緒方盆地の水と酒	飯沼賢司	

章	節	執筆者
第3章 歴史	2 近代の長距離水路と山間部の棚田開発	飯沼賢司
	3 近代の石橋建設と交通	〃
第4章 暮らしと景観	第1節 水の利用と景観	
	1 はじめに	飯沼賢司
	2 イノコの利用とその変遷	〃
	3 緒方井路とクンバ（汲ん場）と石橋	〃
	4 軸丸棚田と富士緒井路	〃
	5 ミズグルマ（自転揚水水車）	段上達雄
	第2節 石の利用と景観	
	1 磨崖仏（緒方宮迫東石仏・緒方宮迫西石仏）	渋谷忠章
	2 緒方の石風呂	段上達雄
	3 緒方川の石橋	高野弘之
	第3節 絹さん人形に見る農家の暮らし	
	1 農家の一年（厩と循環型農業）	段上達雄
	第4節 集落の景観	
	1 集落の位置と農家建物の関係	姫野由香
	2 緒方盆地の主要な神社	伊東龍一
	3 緒方盆地の屋根並み景観調査	高野弘之
	4 緒方盆地の建物調査	〃
	5 文化財及び文献等に掲載されている建築物	〃
	第5節 景観の中の伝統行事	
	1 川越し祭	段上達雄
	2 小松明火祭り	〃
	3 五千石祭り	〃
	4 千盆搦	〃
	5 緒方神楽	〃
	6 井路まつり	〃
	7 緒方音頭	〃
	第6節 人口動態	
	1 豊後大野市全体の人口動態	高野弘之
	2 緒方盆地の人口動態	〃
3 緒方盆地の高齢化率	〃	
第7節 経済・産業		
1 豊後大野市の産業	高野弘之	
2 豊後大野市の農業	〃	
3 緒方盆地の農業	〃	
第8節 土地利用の状況		
1 緒方盆地の土地利用の状況	高野弘之	
第9節 各地の景観		
1 小宛（牧原）地域の景観～14 知田地域の景観	高野弘之	
第5章 緒方盆地の本質的な価値	第1節 緒方盆地の本質的な価値	
	1 緒方盆地の景観特性のまとめ	飯沼賢司 高野弘之
	2 緒方盆地の文化的景観の成立過程	高野弘之
	3 緒方盆地の農村景観の本質的な価値	飯沼賢司
第6章 今後の展望と課題	第1節 地域の課題	
	1 棚田を潤す井路の維持管理の困難さと耕作放棄地の拡大	高野弘之
	2 地域共同体を結びつける年中行事の減少	〃
	第2節 農村景観の継承の意義	〃
	第3節 保存の基本方針	
	1 諸法令の順守・整備と保護組織の充実	高野弘之
	2 構成要素の選定	〃